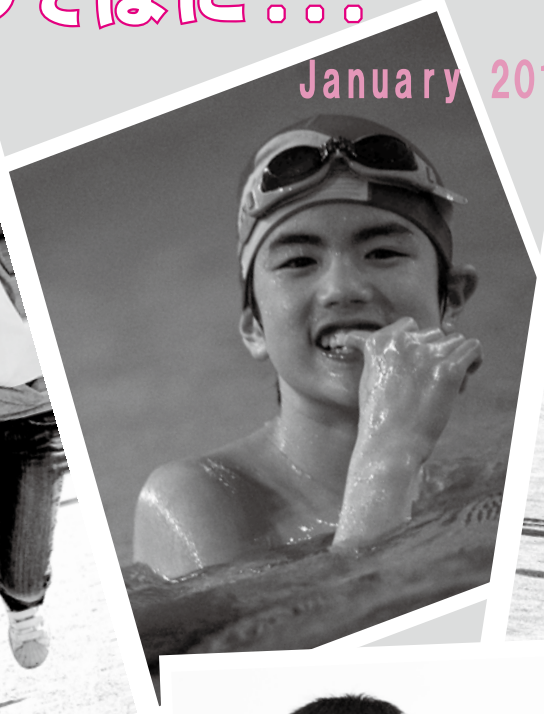
社協だより

Beside you

…あなたのそばに…

January 2012 No.72



障がい者の社会参加を考える

社会福祉法人
大月市社会福祉協議会

障がい者の　社会参加を考える

ノーマライゼーション（Normalization）…それは「高齢者も障がい者も子どもも女性も男性もすべての人々が、人種や年齢、身体的条件に関わりなく、自分らしく生きたいところで生き、したい仕事や社会参加ができる、そうしたチャンスを平等に与えられる」〃みんなが一緒に〃暮らせる社会が〃当たり前〃だとする考え方をいいます。

障がい者が健常者と同じ様に過ごしていくには、まずは、すべての人々が障がい者に対して理解し、障がい者自身が社会参加への意欲を持つことだと思います。今回は、障がい者の社会参加について、すべての人が関わるために、どんなきっかけや方法があるのか考えてみました。

スペシャルオリンピックスを知っていますか？

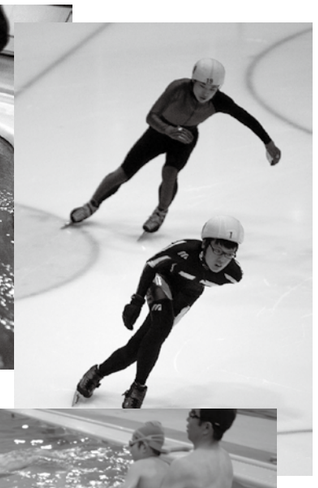
スペシャルオリンピックス　安藤 悦子

『スペシャルオリンピックス（ＳＯ）』は、知的発達障害のある人たちにスポーツ活動を提供して、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。簡単に言うとスポーツトレーニング（プログラム）の場を提供して、それを発表する競技会（大会）を開催します。その中に沢山のふれあいや喜びが生まれます。そして成長する姿を見つけることができます。

私の息子（１８歳）も１１歳の時から参加しています。都留ファミリーボウルで６月から１１月まで行われるボウリングプログラムです。当初はボウリングを「理解して楽しむ」なんて無理だと決めつけていたけれど、子供との居場所を求めて何となく体験会に参加。でも何かに動揺して泣き叫ぶ息子。これは無理だと心も折れて諦めかけた時、先輩ママの「大丈夫。みんな同じ。少しずつでも出てきてね。」の言葉。そのおかげで今日まで続けてくることができました。今は自分で目標スコアを決めたり、仲間に会うのを楽しみにしたりと毎回嬉しそうに通っています。

また親の私にも沢山の仲間ができました。ママ友です。一緒に愚痴って笑い飛ばしてストレス解消。悩み事には先輩ママ、役立つ情報やアドバイスも頂けちゃいます。

そしてアスリート達の最高の笑顔に出会える喜び…



そんなＳＯに参加してみませんか？参加の仕方はいろいろあります。

①アスリートとして…..競技者です。６歳以上の知的発達障害のある人なら誰でもＯＫ。

②ファミリーとして…..家族です。アスリートを支え一緒にチャレンジしましょう。

③コーチとして……..専門知識はいりません。共に楽しみながらプログラムで活躍して下さい。

④ボランティアとして ..アスリートのサポート、広報、事務局運営、応援、出来ることをできる時間で参加ください。

⑤協力者として……..非営利団体の為、寄付・協力で運営されています。企業・個人・団体の皆様のご支援をお願いいたします。

郡内のボウリング以外にも、甲府方面ではスケート・水泳・フロアホッケー・ボウリングプログラム等もあります。興味のある方は、下記へ連絡をお願いします。

スペシャルオリンピックス日本・山梨
〒406-0036　笛吹市石和町広瀬 623　石和共立病院小児リハ室気付
事務所携帯　080-2055-7410

障がい児のための余暇活動

りん鈴Factory

（りんりんファクトリー）

代表　津根 静香

りん鈴Ｆａｃｔｏｒｙは、平成15年に、障がい者福祉の措置制度が支援費制度に変わったことをきっかけに、「親が障がい者福祉について勉強し、制度について理解していかないと子供を育てられない」と言う思いで集まり、「何か私達が子供のために出来ることはないか?」と言う考えが生まれ、平成17年、宮谷にある、山梨県立やまびこ支援学校に子供が通っている大月市内在住の母親５人で、障がい児のための余暇活動を目的にスタートしました。こうして私達が最初に取り組んだのは資金確保でした。自己負担で材料を買い揃え、手芸品を作り始め、それを商品として、私達の考えに賛同、協力していただける場所を探し、そこで売っていただいて資金を確保しました。そしてその後、その資金で障がい児者のための余暇活動の機会として、イベントを企画運営することになり、音楽療法、美術活動、リトミック、体操、ダンス、劇鑑賞など、専門の講師や、市内のボランティア団体や講師にお願いして実施してきました。そして現在は、社協の受託事業である障害者社会参加交流事業「ぐー・ちょき・ぱー」と合同でイベントを開いています。

こうして今に至るりん鈴Ｆａｃｔｏｒｙですが、発足当時の子供もやまびこ支援学校を卒業し、社会へ出る年齢になりました。そこで今後の活発な運営に向け、新規メンバーを募集しているところです。新しいメンバー（親）が加われば、新しい思いも考えもまた生まれてきます。時代の変化が激しい中、障害のある親子の歩みは決して速くはありませんが、「ウサギとカメ」の話のカメの動きで地道に確実に歩んでいきたいです。

現在の活動を通して、いつも感謝していることは、障がい児者と一緒に遊び接してくれるボランティアの皆さんの存在です。ボランティアさんの存在があるからこそ、イベントの回数も充実できているのです。

今、私が感じているのは、障がい児者の社会参加は、その親の社会参加が必要不可欠であるということです。まだまだ子供が障がいを持っていることを隠したいご家族様もおられると思いますが、それって辛くないですか?寂しくないですか?孤立することは一番悲しいと思います。障害のある子供は、まさしく個性の塊です。そして親もその影響を受けて知らず知らずのうちに個性的になってしまう気がします。「私がいれば子供は育てられる。私が子供の気持ちを一番わかっている。」そうでしょうか?

同じ障がいをもつ子供を通じて集まる親は、集まることによって、医療面、療育面など、色々な情報を得ることが出来るので、集まること自体は必要ではありますが、同じ障がいの区分とすると、市内では人数が少なくて難しいのではと思います。親には、もう少し広い考えを持っていただき、３障害（身体・知的・精神）の子供と会う機会、また、その親と話す機会がないと、気の合う親とは巡り会えないかと思います。まずは同じ様な悩みを抱えた親同士の友達探しから。そして子供も巻き込んでいくのが良いのかなと思います。「自分だけが大変だ」とか「自分だけ不幸だ」と言う考えも変わるかも知れません。

子供と親が安心していられる場所と時間を作る、広げるために、福祉団体に加入する事や障がい児者向けのイベントに参加する事が、まずは社会参加の第一歩だと思います。りん鈴Ｆａｃｔｏｒｙでは仲間を募集しています!!

地域へ色々な出会いを求めて…

障がい者社会参加交流事業
『ぐー・ちょき・ぱー』

障がいのある方も
そうでない方も
「このまちに住んでよかった」
と言ってもらえるような活動を
目指します。

ぐーちょきぱーは、昨年度より新たに開始した事業です。この事業は、市内の障がい者や保護者の方が誰でも参加でき、同じ悩みを持っている方々が一同に集まれる障がい者等の交流の場です。創作活動や野外活動の体験を通して、障がいのある方の余暇活動、社会参加を支援します。また、保護者の方を対象とした学習会や座談会も実施しています。

活動をとおして、身体、知的、精神の障害の種別に関係なく、家族や関係者、地域で一体となり、みんなで一緒になって支えて行くことが出来ればと考えています。

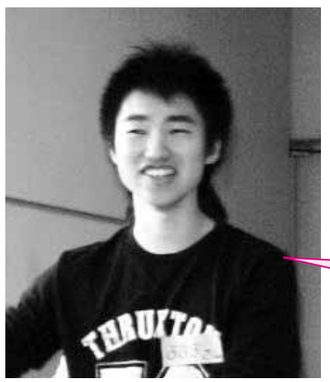
この活動をはじめた頃は、「福祉センターにも入って来れない。」「親がそばにいなければ活動できない。」そんな子も、今では、自ら福祉センターに来て、楽しく活動をし、みんなに笑顔を振りまいてくれています。第一段階の目標として、皆さんに福祉センターになれてもらう、余暇活動を楽しんでもらう、友達づくりについては、支援出来てきたのかなと思います。

今後の目標としては、野外活動をとおして、いろいろなものを見て、聞いて、多くの体験をしてもらいたいと考えています。

この事業に関するお問い合わせなどは、大月市社会福祉協議会地域福祉担当（電話23－2001）までお願いします。

ボランティアを通じて…

山梨大学　学生　土屋さん
毎月１回コンスタントに開催されているので参加者の変化や様子がわかり、サポートするボランティアとしても参加者個々を理解するのに助かっています。
課題としては、参加しているボランティア同士の意志の統一が必要だと思います。ボランティアによって参加者への関わり方に差があり、付くボランティアによって、参加者の活動が制限されてしまうことのないようにしたいです。



大月短期大学　学生　青木さん
ボランティアを始めた頃は、緊張をしてどう接していいか分からなかったけど、障がい者の人から声をかけてもらってだんだん打ち解けて接することが出来るようになって来た。今は、ボランティアをした後は、新鮮な気持ちになる。

障がい者の社会参加
そしてみんなに出来ること…

すべての人たちのちょっとした思いやりによって、
障害者など支援を必要とするすべての人が快適に、
かつ幸せに暮らせるようになる。
わがまち大月市もそんな思いやりのあふれるまちに…

障がい者のお出かけ

生活（せいかつ、life）は、人が生きているために行っている限り、その命を維持し、育むのことです。基礎となる「衣食住」の他、日常生活動作という名でいうようなものや、働くこと、余暇を営む、コミュニケーションをとり、生きることの中に積極的な意義を見出し、それを喜びとする営み、職業生活と私的生活、また、その間の社会的な生活といった分野にまたがるもの全てをいいます。

また「衣食住」とは、人が生活していく上で必要な衣（服装、ファッション）、食（食事、食文化）、住（住居、居住）のこと。生活の基本の柱となるものです。個々の詳細ではなく、それらをどのように組み合わせて暮らし向き、ライフスタイルを維持しているか、ということを指していうものでもあります。

これらは障がい者にとっても必要不可欠なのではないでしょうか？

障がい者にとっての「衣食住」が充実してくることにより、障がい者が友人との食事を楽しみ、ショッピングなどを楽むなど、「出かけたい。出かけよう。」という思いになってくるのだと思います。障がい者も健常者と同じ様にお出かけしたいはずです。

障がい者とお洒落

多くの人にとってお出かけのきっかけになることのひとつが「お洒落」ではないでしょうか？特に女性においては尚更のことでしょう。洋服、靴、アクセサリーなどのファッションやお化粧、ヘアなど「おしゃれ」には、明るい気分になったり元気になったりと、さまざまな力が隠れています。それは、たとえ障がい者であっても同じでしょう。「障がいもその人の個性」と良く耳にします。障がい者の方々が、その個性を生かす中で、自分らしくお洒落できたらどんなに素晴らしいことではないでしょうか？インターネットで、「障がい者　お洒落」をキーワードに検索してみると、思いのほか関連する記事がヒットします。意外に多く目にするのが障がい者のためのファッションショーです。ある記事によれば、美容師さんが、障がい者施設へ訪問美容としてボランティアを行なっていた際に、施設の若い障がい者の表情が曇っているように感じて、「髪型だけでなく、ファッションも楽しんでもらえたら、明るくなってくれるのでは？」との

思いで、ファッションショーを思いつき、美容師仲間らに呼びかけて実現したようです。「自分の気持ちを自由に表現してほしい」と衣装や髪型はモデル（参加者）の希望に沿った形で行なったようで、障がい者それぞれが、自らの思い、意思でファッションショーを盛り上げ、このイベントをきっかけに社会復帰を誓った方もいたようです。

また一方でこんな記事も見つけました。福井市社会福祉協議会の事業では「おしゃれ講座」と題し、女性の障がい者を対象に化粧品会社の協力をいただく中で実施されました。化粧をすることで、健康的で明るい印象や清潔感を持たせるだけでなく、明るい気分になったり外出したいなと思えたりと、何か活動するきっかけになることをねらい、開催したとのことです。参加者は、美容・化粧品のサンプルを使いながら、実際にスキンケアとメイクアップの体験をしたようです。

眉や目もと、口もと、ほお紅とメイクアップが仕上がるにつれ、普段とは違う自分の姿にドキドキしたり嬉しくなり、自然と笑顔や笑い声が溢れ、参加者から「片手しか使えないから化粧するのは無理と思っていたけれど、片手でもできるとわかった。」、「不思議と自信もついた。明日から頑張る。」と言った声も聞かれたそうです。

障がいの種類によっても、おしゃれに対する色んな工夫が出来ます。肢体に障がいを抱える方は健常者と違い、身体の動きが制限されることが多いのですが、そういった問題を解決するためにリフォームを施しその人向けに着やすく仕立てることも出来るでしょう。確かにそういった方向けの衣服もあったりはするのですが、健常者のように色々と選べる選択肢が多いわけではありませんので、障がい者にとって好みの洋服を探して、リフォームを施し着用出来るようにすれば、障がい者の選択肢も多くなります。

また、視覚に障がいを抱える方は、家族の方や親しい友人にお願いし、身だしなみのチェックをお願いするだけでなく、親しい友人のアドバイスを受けながら、流行の洋服を触りに行ったり、イメージを膨らまして新しい服を買い求めたりすると楽しいでしょう。また女性の場合はメイクも然りで、親しい友人に練習にお付き合いしてもらったり、仕上げを手伝ってもらったり出来たらなんて素晴らしいことでしょう。「身だしなみ」から一歩踏み込んで「おしゃれ」を楽しむ、ワクワクしてきますよね？

色んなケースから「おしゃれ」について考えてみましたが、障がい者自身だけではこれ

らは実現できないと思います。大勢の健常者が関わっていただくことで、実現できるのだと思います。ファッションショーでは、美容師、スタイリスト、会場のスタッフ等々、多くの健常者の支えがあって実現できます。メイクアップ体験も専門家などの支えが必要です。

障がい者と趣味

多くの人にとって、生きがいとなるもののひとつに「趣味」があります。健常者にとっては趣味の領域は、野球、サッカー、ゴルフなどのスポーツや、絵画、書道、音楽など幅広く存在します。しかしそれは、障がい者の方々にとっても、なるべく多くの選択肢にならなければなりません。月刊誌の「月刊福祉　平成23年12月号（全国社会福祉協議会発行）」にて面白い取り組みを見かけました。茅ヶ崎市社会福祉協議会（以下茅ヶ崎市社協）の取り組みなのですが、簡単に言うと障がい児を対象として、サーフィンスクールを実施したとのことです。茅ヶ崎市社協では障害者地域生活支援センターを開設しており、障がい児者やその家族の相談支援に取り組んでいます。これら相談支援業務の中からあらゆるニーズが浮かび上がり、障がい児を対象とした放課後教室「サマースクール」

人と人をつなぐ実践

実践4

みんなとサーフィンをしたよ！

神奈川県●茅ヶ崎市社会福祉協議会

暑く、長い、夏休み。神奈川県の湘南海岸で子どもたちが主役の「サーフィンスクール」が開催された（主催：茅ヶ崎市社会福祉協議会、講師：Ocean's Love事務局）。参加したのは、地域で暮らす障害のある子どもたち、きょうだい児、家族、そして地元のサーファーや住民などのボランティア。真夏のビーチに地域の幅広い世代が集まり、子どもたちのサーフィン体験や交流を楽しんだ。

「地域に居場所を」切実なニーズを受けて

茅ヶ崎市社会福祉協議会（以下、市社協）では、2002年に障害者生活支援センターを開設し、障害のある人やその家族の相談支援をすすめている。

事業開始以来、障害者生活支援センターが行う相談支援や当事者団体等への聞き取り調査において、本人や家族からさまざまな課題があげられた。障害者自立支援法施行前は、地域に支援の受け皿がないなか、「地域に障害児の居場所がない」「同世代の子どもと遊ぶ機会をつくりたい」「子どもの体験を広げたい」「保護者のレスパイトの時間がほしい」「地域の障害理解がすすんでいないため、暮らしづらい」など、児童の居場所の課題を訴える声が多かったという。また、住民と市社協が地域福祉活動を推進するなかでも、居場所や障害理解に対する課題があげられていた。

こうした地域のニーズを受け、障害者生活支援センターでは、2006年度から「障害児を対象とした放課後教室・サマースクール」を開始。さまざまな分野で活躍している住民に協働を呼びかけ、長期休暇中に、①フリースペース（自由に遊べる場所を開放）、②お料理教室、③音楽教室、④クリスマス会、⑤プール教室などのイベントを一つひとつ立ち上げてきた。

サーフィンに挑戦！

サーフィンスクールは夏休みに開催するサマースクールのひとつのプログラム。Ocean's Love事務局メンバーと市社協職員の出会いによって2010年に始まった。

Ocean's Loveは、「サーフィンを通じて、障害のある子どもたちに海の素晴らしさやエネルギーを感じてもらい、少しでも心がハッ

障害児、きょうだい児、家族、友達を対象にした「サーフィンスクール」は保護者のニーズを受けて始まった

December 2011　月刊福祉　80

を開始しました。そのサマースクールのプログラムのひとつとして、地元のサーフィン関係者を中心に食品関係事業者、漁業関係者や一般のボランティアなど多くの方々の支援や協力をいただいて、サーフィンスクールが実現できたのでしょう。

このサーフィンスクールはプログラムのひとつに過ぎないのですが、注目すべきは、茅ヶ崎市と言う場所でサーフィンと言うひとつの文化が育まれてきたという点です。

それは私たちの大月市に置き換えてみたらどうでしょうか。大月市には色んな文化が思いつきませんか？例えば老いも若きも野球やサッカーを好む人はたくさんおられるような気がします。吹奏楽をはじめとする音楽文化も盛んではないでしょうか？清流桂川での鮎釣りも盛んです。このように、我が大月市においてもたくさんの文化が存在しますし、新たな文化も築き上げていけるでしょう。大月市は「富士山が綺麗に見えるところ」といった類の言葉も良く耳にしますので、ハイキングなどが新しい文化になっても面白いと思います。これらの文化を生かし、関係者のご協力をいただく中で「障がい者の生きがいづくり」的なものをプログラムできたら、今後、障がい者の趣味の幅が広がってくるのではないでしょうか？

いずれにしても、このような取り組みは障がい者の趣味の観点からも、多くの健常者の支えなどをいただく中で、実現できるものであると思います。

バリアフリーマップ

インターネットで「バリアフリーマップ」と検索してみると、たくさんのバリアフリーマップがヒットします。これらはほとんどが障がい者用トイレの有無や通路の段差情報など、車いすや高齢者の方々向けの情報が表現された地図のことで、各自治体などが中心となり調査・発刊されています。配布場所がこれらの出先機関などが中心のため、一般の方々の目に入る機会

は少ないが、これから進む高齢化社会を考えても最重要な地図のひとつになるでしょう。

これらが悪いとは言いませんが、バリアフリーマップは、もっともっと発展していける可能性を感じました。多くのマップは、限られた人々の手で作られているように感じ、出来上がった地図や情報が限られ「行きたい場所の情報が載っていない」というパターンが多くなってしまうように感じました。障害のある方たちからも最初に意見を聞くが、数も限られ、障害や立場もまちまちなため、製作段階で反映される部分は限りなく少ないのではないでしょうか。

また、調査の際、民間施設や店舗などからは掲載を断られることも多く、一般のお客様に迷惑がかかる、面倒だという本音

を「スペースが狭いので」「うちは障害者トイレがないので」と断られるケースが多いようです。

では、本当のバリアフリーマップとはどういうものでしょうか？

企画製作の際の検討委員に地図の専門家が参画するのはもちろんですが、もっと大切なのは、行政をはじめ、多くの地域住民、民間施設関係者、店舗、福祉関係団体並びに施設、そして当事者である障害を持つ方々が大勢加わって、それぞれがそれぞれの想いで作成していくものではないのでしょうか？一人ひとりが障がい者などに対して、「不便なこと、不便なもの」などを意識していれば、自ずとマップの土台は出来上がってくると思います。

また、マップが出来た作成後の配布方法や更新なども課題かもしれません。せっかく作成したマップですから、すべての人の手に渡り、すべての人が活用し、すべての人に手によって、情報が更新されマップを育てていかなければ意味がありません。これらも、多くの人々の思いやりの心を持って労力提供をしていただき継続していけたら、それな素晴らしいマップになることでしょう。

このように、バリアフリーマップは、すべ

ての人々の手によって作り上げていくもので、すべての人々の手によって育まれていくものが、理想のバリアフリーマップと言うことなのではないでしょうか？

心のバリアフリー

心のバリアフリーという言葉を良く耳にします。心のバリアとは「知らないこと・知ろうとしないこと」、「知っていても理解しようとしないこと」、「障がい者は○○○だというような決めつけ」のことであり、知識不足、認識のゆがみ、誤解、偏見、経験不足などが原因で、対等に、人格を尊重してつき合えないことを指します。つまり、心のバリアフリーとはこのような心のバリアを解消することです。

では私たちは、どのように心がけたら良いのでしょうか？まず、障がいをひとつの個性として捉え、障がい健常関係なく、みんなが同じ様に快適に暮らせる社会を目指すことではないでしょうか？広いトイレや段差を無くす、いわゆるハード面の整備も大切ですが、支えあう気持ち、思いやる気持ちを持って、たとえ段差があっても、障がい者が困っていたら、周囲の人が声を掛けて抱えてあげるなど、手助けすれば解決できます。街角で盲人用の点字ブロックの上に、自転車などを駐車しないようにすることも大切です。レストランなどでも、ハード（設備等）が整っていなくとも、店員のちょっとした心遣いで、段差などのバリアを無くすことも出来ます。

先に記載したバリアフリーマップでも、このように、ソフト面においてもバリアフリーなお店なども、詳細を添えて載せると良いと思います。

他にも先に記載した、おしゃれや趣味においても、いろんな人の優しい手、思いやりの心、支えあう心がバリアというハードルを越える大きな力になるのです。何も福祉の知識が無くとも、趣味や特技を生かして、ファッションショーに関わったり、おしゃれ講座に関わったり、サマースクールなどに関わったりして、障がい者にとっての、「当たり前の生活」への力になれるのです。心のバリアフリーとはそういうものです。

障がい者の社会参加には色んな形がありますが、このようにあらゆる面で、多くの人が少しずつ、障がい者の背中を「ポンッ」と押してあげることで、障がい者自身が、社会参加へと、また一歩踏み出せて行くのではないでしょうか？

さあみなさん！すべての人が楽しく有意義に、かつ幸せに暮らせる大月市を、地域住民全員で築き上げていきましょう！

ボランティアだより No.37

障がい児者サポートボランティア養成講座受講者募集!!

「地域貢献へのはじめの一歩」

地域で“誰もが自分らしく共に豊に暮らせるまちづくり”に向けて、障がいを持っている方が余暇活動や社会参加ができるようにサポートボランティアをしてみませんか??
障がいの特性を学び、支援できるボランティア養成講座を実施します。
講座の内容は、ボランティアの心構え、障がい者の心理、様々な障がいの特性、車いす・食事の介助を学び、盲導犬・白杖・介助犬の体験などを予定しています。

日時：平成２４年２月～３月（全５回）

	日　時
第１回	２月２２日（水）　18：30～20：30
第２回	２月２５日（土）　9：30～12：30
第３回	３月　７日（水）　18：30～20：30

４回目以降は、後日連絡いたします。
会場：総合福祉センター　６階多目的ホール
対象者：市内在住、在学者でボランティアに関心のある人。何かボランティアしてみたいけど、どんな活動があるのかわからない方（受講後、ボランティア活動に関心のある方）
募集人数：３０名
受講料：３００円（テキスト代、食材料費）

平成２４年１月２７日金曜日までに下記申込・問合せ先までご連絡をください。

申込・問合せ先：大月市社会福祉協議会・地域福祉担当　23-2001

ボランティア保険加入の勧め

いつもボランティア活動をしていただきありがとうございます。
「ボランティア保険」ってご存知ですか？
ボランティア活動中に、ボランティアがケガとしてしまったり、誤って相手にケガを負わせてしまったり、物を壊してしまったりすることが時々あります。そんな時「良いことをしているから人に責められることはない」と思っていませんか？決してそんな事はないのです。「じゃあ、（ボランティア）しない!!」ではなく、せっかくの活動なので、〝備えあれば憂い無し〟是非、ボランティア保険の加入をお勧めいたします。
詳しい内容は、大月市社会福祉協議会・地域福祉担当にご連絡ください。

ちょこっとボランティア

今まで、皆さんから頂いたハガキを富士宮市に在ります「盲導犬の里　富士ハーネス」を通し「(公財)日本盲導犬協会　日本盲導犬センター」に寄付したのでご報告させていただきます。

年賀状を書いて失敗した、懸賞応募のハガキを出そうとして間に合わなかった…そんな書き損じハガキや未使用のハガキはありますか？あなたのそのハガキが盲導犬育成に役立ちます。

わざわざたくさんのお葉書をお持ち頂きありがとうございます。

ペットボトルキャップの収集、ありがとうございます。

二酸化炭素の発生抑制の為だったり、世界の子どもたちのワクチン接種代になったりと少しのことでも善いことをしているのです。収集時の願いなのですが、出来れば値札・ポイントシールなどは剥がして下さい。それと出来れば軽く洗浄してください。食品がついていると異臭が発生することがあります。せっかく集めて頂いているので全て役立つようにしたい!!と思っております。ご協力お願いいたします。

ありがとうございます　ご寄附の報告

●寄附金

御太刀琴の会様5，000円・知見あき江様30，000円・㈱花咲カントリー倶楽部様200，000円・紅富士太鼓様32，068円・天野健次様30，000円・大月市佛教会様100，000円・車椅子ダンス普及会「矢車草」大月支部様5，000円

●古切手、使用済みテレカ、ベルマーク等

ゆうゆう様・佐々木カヨ子様・中村様・梁川ボランティア様・小俣芳江様・藤本政三様・ゆりの里様・いきいきサロンかつら様・四季の丘恋路老人クラブ様

●ペットボトルキャップ、プルタブ等

公明ひまわり様・大月保育園様・佐々木容子様・佐々木明美様・加藤邦子様・井上信夫様・小高末子様・小高正行様・橋本芳江様・遠山深雪様・佐藤友美様・小笠原隆子様・梁川ボランティア様・小俣芳江様・藤本美代子様・杉本ふ志子様・野村常幸様・滝口茂様・小林琴代様・藤本尚弘様・小林ひろ子様・富田真扶美様・和田尚子様・杉本寿子様・柁原明美様・小俣直子様・いきいきサロンかつら様・ヘアサロンウチダ様・田中善子様・小俣光江様・小泉ゆう子様・清水和夫様・奥野泰子様・金子さかえ様・小俣十三江様・小林八重子様・スターランド様・木下千恵子様・真木いきいきサロン様

●アルミ缶・プルタブ

藤本かおり様・橋本芳江様・梁川ボランティア様・畠山昭二様・柁原明美様・いきいきサロンかつら様・杉本ふ志子様・天野和子様・畠山昭二様・内野和江様

求む！広報編集委員!!

広報編集委員を募集しています（随時）

大月市社会福祉協議会では、
広報の市民編集委員制度を設け、
更に充実した広報活動を目指しています。
地域福祉に興味がある方はもちろん、
コンピュータによる広報紙面の編集に興味がある方、
ホームページの編集に興味がある方、
取材などに興味がある方など、
たくさんの方に応募していただき、
大月市民の皆さんに
「社協」という舞台で
大活躍していただけたら光栄です。
是非この機会に、
社協（社会福祉協議会）に関わってみませんか？
きっと、わたしたちのまち「大月市」が
もっともっと大好きになるに違いありません!!!
お気軽に左記までお問い合わせください!!!

お問合わせ：大月市社会福祉協議会
事務局総務担当
電話（２３）２００１(代)

ありがとうございます！
第36回大月市社会福祉大会を盛大に開催することができました

平成二十三年十一月二十日、大月市民会館大ホールにおいて、「ともにささえあう福祉のまちづくり」をスローガンに、第四十四回大月市老人福祉大会と併せ第三十六五回大月市社会福祉大会を開催しました。

第1部として、記念式典を行い、その席上、社会福祉ならびに老人福祉に貢献された方々に対しての表彰を行ないました。

そしてメインイベントとなる第2部では、毎年恒例となっている、大月市社会福祉協議会職員によるアトラクションを行ないました。今年度は、甚大な被害を引き起こした、平成二十三年三月十一日の東日本大震災、ならびに九月の台風十二号、十九号など災害を切り口とし、普段からの住民相互の見守り活動の重要性と、具体的な地区社協などの取り組み事例を、職員の手作りによる寸劇にて、来場者の皆様に伝えました。

大会の企画に際し、ご協力いただいた多くの市民の皆さんに感謝申し上げますと共に、今後も、この大会をきっかけとし、社協役職員が一丸となり「地域福祉推進」の充実に向けた取り組みに全力で努めてまいりますので、住民主体の地域福祉の推進に向け、地域での見守り活動など、市民の皆さんに出来ることから取り組んでいただき、併せ、各種社会福祉事業等への更なるご理解とご支援を、ぜひともよろしくお願いします！

住民相互の見守り活動を住民自らの手で推進しよう！

第10回 社会福祉チャリティー ゴルフ大会開催

去る、9月11日（日）「花咲カントリー倶楽部」において市民等のゴルフ愛好者「193名」の参加者のもと、盛大に開催されました。

一時夏を思わせる暑さの中でありましたが、ゴルフ日よりの初秋のもと、和気あいあいの中行われ、ゴルフ大会を通して福祉募金を募ると共に、社会福祉に対する市民の意識高揚も図られ、もって福祉の向上に寄与することが出来たと思います。

主催者であります「社会福祉チャリティーゴルフ大会実行委員会（代表 藤巻政寛）」を通して、大会参加者をはじめ実行委員、市民有志あるいは花咲カントリー倶楽部等から、チャリティー募金として、総額「470，180円」の浄財をご寄付して頂きました。このうち、東日本大震災への義援金としまして「50，000円」を送らせて頂きました。皆様方の意を十分に生かし、社会福祉（地域福祉や高齢者福祉あるいは、障害者福祉など）の推進のために役立たせて頂きます。

地域住民主体の地域活動

ふれあいいきいきサロン

「サロン寺向」 in 富浜町寺向地区

「サロン寺向」は、前向きな参加者、強力な?ボランティアスタッフ、よい雰囲気で活動しています。増えるとも減ることないメンバーは、私達サロンの誇るところです。会員の中に舞踊、お花、手工芸等の講師がいて、それぞれ楽しく指導してもらっています。

○代表者　椙原　久枝
○利用者３１名／ボランティア６名
○実施会場　山田宅

代表者さんより
何より健康と無理をせず気軽に参加でき、長続きするサロンを目指しております。

参加者　辻村和子さん
サロンのお手伝いをしながら年配者から沢山の知恵を学んでいます。

参加者　秋山ちか子さん
若いボランティアの人に支えられて楽しいひとときを楽しみにしています。

みなさん、ありがとう!!

赤い羽根共同募金

今年度は、「じぶんの町を良くするしくみ」「地域をつくる市民を応援する共同募金」をスローガンに１０月１日から１２月３１日まで実施され、多くの心温まる募金をいただいております。
１０月４日（火）に、大月・猿橋・鳥沢の各駅にて街頭募金を行い、元気いっぱいな小学生をはじめ関係各位のご協力のもと、たくさんの募金をいただきました。
なお、皆様からいただいた募金は、新年の１月中旬に山梨県共同募金会へ送金させていただく予定です。

来たれ！老大41期生
充実のシルバーライフは老大と共に

大月市老人大学　４３期生募集のおしらせ

学ぶ喜び、友との語らい。
「青春の謳歌」再び！

募集人数	限定５００名
入学資格	市内在住６０歳以上の老人クラブ会員
内　容	サークル学習（年１５回程度）、全体学習（講演、音楽鑑賞、音楽鑑賞など年７回）、春の遠足と秋の修学旅行（自由参加）、学園祭（年間成果発表イベント）
学習場所	市民会館、総合福祉センター、大月区民会館
学習費用	年額８，０００円（申込み時　払い込み）
募集期間	２月１日（水）～２月２９日（水）所属する単位老人クラブの会長にお申し込みください（クラブ未入会の方は事務局にお問い合わせください）

募集サークルと充実の講師陣

園芸部	伴野　正明	園芸部	小堀　康介	手芸部	水上　節子
華道部	笠原　紫苑	書道部	花田　龍渓	書道部	望月　大耿
詩吟部	後藤　秀慧	舞踊部	東山　夢静	民謡部	山本　龍
大正琴部	富田　昭二	囲碁部	小泉　皖司	茶道部	山口　宗光
短歌部	花田　規矩男	社会部	小笠原　博慧	ダンス部	小笠原　三夫
ダンス部	藤本　利子	料理部	武井　真記子	コーラス部	佐々木　加代子
コーラス部	高島　千香	陶芸部	知見　照雄	陶芸部	小俣　好弘
カラオケ部	小俣　早苗				

お問い合わせ　老人大学事務局　電話２３－２００１㈹
（社会福祉協議会内）小林・山崎

ご協力ありがとうございました

平成23年度 ふれあい福祉バザー

去る11月27日（日）大月市民会館3階で、恒例の「ふれあい福祉バザー」を開催しました。

今年度、皆様よりご提供いただいた品数は7，830点で、売上げ金額は982，280円でした。

このようにバザーが大盛況となることができたのも、多数の寄贈品をくださいました地域の皆様、各市政協力委員長、各常会長をはじめとする回収・集計作業にお手伝いいただいた皆様、2日間に渡るバザー準備・販売にご協力いただきました皆様のおかげであると、感謝しています。

本当にありがとうございました。

ありがとうございます!!!
東日本大震災義援金の報告

東日本大震災後、多くの方々より義援金をお寄せいただいています。

大月市社会福祉協議会へお寄せいただいた義援金は、山梨県共同募金会を通じ、各被災地へ送らせていただいています。ありがとうございました。

宮谷有志会様・天野工業（株）社員互助会様・NPOおおつきエコビレッジ様

＊受付順にて掲載させていただいています。

この他、誠実堂様のご協力を頂き設置しました募金箱や福祉センター募金箱に、多くの市民の皆様からご協力をいただきました。

12月10日現在、**総額2，322，965円**が集まり中央共同募金会へ送金いたしました。

社協会員（随時）募集しています

社会福祉協議会では、市民の皆様が社協活動に参加する意思の表明として会員制度による運営を行なっています。そんな住民主体の活動の実現と円滑な事業、サービス推進のための自己資金確保のために、住民の皆様に会員として、会費を納入していただいています。毎年、多くの市民のご理解とご支援をいただいていますが、今年度もご協力をお願します。この会費には、次のようなものがあります。

① 一般会費（市内全世帯を対象）会費1口500円

◎ 区長さんや自治会長さん等にお渡しください。本年も区長さん、自治会長さん方にご協力をいただき、納入をお願いしています。なお、区費等から納入していただいている区自治会等もあります。

◎ 常会に加入されてない方で社協会員としてご加入いただける方は、お手数ですが社会福祉協議会事務局までご連絡ください。

② 団体会費（社会福祉に関係のある諸団体及び施設等）会費1口1，000円

③ 特別会費（企業、企業団体等）会費1口5，000円

④ 個人会員（篤志家等）会費1口1，000円

お問い合わせ　0554－23－2001　大月市社会福祉協議会総務担当

社会福祉協議会は、すべての住民の幸せへの架け橋でありたいと思っています。

高齢者の介護や障害のある方の生活や、いきがいづくりなどの、生活全般に関わる困りごと、また、「どこに相談に行ったらいいのか分からない」など、あらゆる暮らしづらさを巡る心配ごとの相談窓口です。どうぞお気軽にご相談ください。

- **心配ごと相談**
- **地域型在宅介護支援センター「花さき相談室」**

上記の相談窓口はいずれも、

大月市社会福祉協議会にて

受け付けております。

お気軽に、お問い合わせください。

電話23－2001（代）

Beside you No.72

２０１２年１月

ご存じですか？社協のマーク？
このマークは、社協の「社」を図案化し、「手をとりあって、明るいしあわせな社会を建設する姿」を表現しています。

CONTENTS

障害者の社会参加を考える …… 2
＊スペシャルオリンピックス
＊りん鈴Ｆａｃｔｏｒｙ
＊ぐー・ちょき・ぱー
＊障害者の社会参加 そしてみんなに出来ること…

ボランティアだより …… 15
第３６回大月市社会福祉大会 …… 18
From 社協 …… 20

＜＜ 編集後記 ＞＞

友人に誘っていただいて、平成２２年の夏、人生で初めての富士登山を経験しました。登山の道中で、神奈川県にある「わかぎ保育園」の園児たちに遭遇しました。あの小さな子供たちが、自分の足で登っていたんです。そのわかぎ保育園の園児の光景は、テレビでも、皆さんご存知だと思います。しかしながら、その園児たちを見て思いました…「身体障がい者でも登山可能かどうか…特に下肢不自由の方。」下肢不自由の方では、まず自力では無理、きっと富士登山をあきらめている方が多いでしょう。でも、多くの健常者が支援することで、あの美しいご来光も肢体不自由の方にとっても夢ではなくなるかもしれません。確かに困難なことかもしれませんが、誰にでも、同じ景色を見る権利があると、私は思っています。また今回の記事で触れさせていただいた、茅ヶ崎市社協の「障がい児のサーフィンスクール」にも驚きました。私もサーフィンが趣味なので、特に目に留まったのかもしれませんが、障がい児もいろんな趣味の選択肢が広がって、健常者と同様にゆとりある人生を楽しんでほしいと心から思っています。「いつか障がい児者の方とサーフセッションする」こんな私の新たな夢がまたひとつ…またまた楽しみになってまいりました。(*^^*)　（広報委員会庶務､大月市社協総務担当　長田　泰史）

今すぐアクセス！

大月市社協　検索

社会福祉法人
大月市社会福祉協議会

社会福祉協議会（略して、社協）は住民の皆さんの参加とささえあいによって、「福祉のまちづくり」を推進することを目的とする民間の団体です。

事務局
〒401-0015　大月市大月町花咲 10 番地　総合福祉センター１階
電話 0554-23-2001（代）FAX 0554-22-2861
心配ごと相談所・大月市ボランティアセンター・在宅介護支援センター「花さき相談室」
介護プラン「花さき」・ヘルパーステーション「花さき」・入浴サービス「花さき」

デイサービスセンター「やまゆり」
〒409-0501　大月市富浜町宮谷 1518 番地 1
電話 0554-20-1130　FAX0554-20-1132

ふたば保育園
〒409-0623　大月市七保町葛野 2783 番地
電話・FAX 0554-22-3508

ホームページ：http://www.otsuki-shakyo.jp/　　メールアドレス：fureai@otsuki-shakyo.jp